

Campus News

[キャンパスニュース]

2020. **1**
Vol.55

【特集】

- 静岡理科大学卒業生の高校教員座談会
- 静岡理科大学生がラグビーワールドカップ大会をサポート
- 学生ホールを全面改修し、カフェテリアをオープン
- 来年度3月卒業生の就職活動に向けて



■ 電気自動車コンテストを開催!

昨年11月7日、本学駐車場にて、自作の電気自動車で20分間の走行距離を競う「電気自動車コンテスト」を開催しました。「自動車工学創造演習」の授業を受ける学生と、学内有志が製作した電気自動車15台が出場しました。チームメートとのコミュニケーションや創造力を駆使した自信の車両でコースを激走しました!

はじまりを、つくる



静岡理科大学





学長挨拶

研究力と人間力の相乗効果としての総合力を
更に高めるための三つの心がけ

学長 野口 博

本学では、学生の皆さんに、学科毎の専門を学ぶ中での「研究力と人間力の相乗効果」としての総合力を身に付けられるような教育カリキュラムを提供しています。

この総合力を、更に高めるために役立つ、三つの心がけをご紹介します。

一つめは、ひとりでしっかりと自分の生き方を考える、哲学する習慣を身に付けることです。詩人、俳人の小島俊明氏は、岩波ジュニア新書の著書の「ひとりで、考える、哲学する習慣を」において、いつも、人生・社会を考え、思索する習慣を身に付ける必要があり、個人として自律し、独りで、人生の全てにアンテナをはり、理的に考え、自分なりの価値観、生き方に目覚めることが大切と述べられています。大学でも、学生の皆さんは、何のために学ぶのかを自ら考えることが大切です。

皆さんも歌ったこともある、やなせたかし氏の「アンパンマンのマーチ」の歌詞では、「そうだ、うれしいんだ、生きるよろこび、たとえ、胸の傷が痛んでも、何のために生まれて、何をして生きるのか、答えられないなんて、そんなのいやだ!」という精神が、皆さんにも、心の奥の方に収められていることでしょう。

二つめは、生涯学び続ける学修力、すなわち、小学生から大学生まで、更には企業人として学び続け、定年後も、より豊かな人生を健康的に送れるかまでも含んでいます。この生涯学修力が一番身に付くと言われる大学での卒業研究では、教員と学生間の密なコミュニケーションの中で、専門での好奇心育成から、自発性、反省、そして専門を活かしての社会性への好奇心、主体性、独立心の育成へと、生涯学修力の成長の流れも進化して行きます。

三つめは、課外活動がいかにか社会性や人間力を育むのに役立つかです。本学でも、自動車部の学生フォーミュラ活動、Sky Travelerの琵琶湖での鳥人間コンテスト、MCFのNHKロボコン、弓道部、野球部、ジャズサークル等の多様な課外活動で、社会性に繋がるチーム力、コミュニケーション力、我慢力、課題発見、計画的解決、実践力などが身に付くと考えられ、学生の皆さんにも課外活動への積極的な参加を願っています。

遠州灘

外は雨、雨、豪雨の連続、バックビルディング現象にさらされている。このようなときに、なぜか、過激派の怒りにふれて銃で撃たれた少女の言葉、「本とペンを手にとろう」が胸によぎった。この語には「勉学は心の豊かな善い人となるために必須」だという意味が託されているように思う。若い学生たちが、一般教養を学ぶのは、偉い人になるためではなく、教養に満ちた善い人になるためでしょう。昨年、大学近くの茶畑でぬかるみにはまり立ち往生する車を目にした。そのとき、本学の学生数名が走り寄り、あっという間に車を移動させた。困った状況を見て自然に体が動いたようだ。これは教養のある善い人の現れでしょう。彼らのようにあたたかい心をもった学生たちに講義をし、そして、ともに研究を続けている。なんと贅沢なことだろう。(K)

遠州灘

授業の紹介

■ 高分子化学

高分子(プラスチック)は生活用品や医療機器、自動車など、日常のあらゆる場面に登場する材料です。なぜこのようにたくさん使われているのでしょうか?それは高分子が優れた機械的な強度や生体適合性などの特性を備えているからです。

「高分子化学(物質生命科学科 3年必修)」ではアクティブラーニングを通して高分子の基礎を理解し、また課題や反転授業で課題解決能力を身につけることを目的としています。テキストの内容と実験動画をリンクさせ、授業の内容が実験や社会にどのように役立っているかを連想しやすくしています。また授業の冒頭で最新の学術論文を紹介し、先端情報や各分野との融合に触れられるように工夫しています。周囲と協力しながら学ぶことも大切にし、レポートの模範解答を紹介するなど学生間で教え合いやすい環境を整えています。

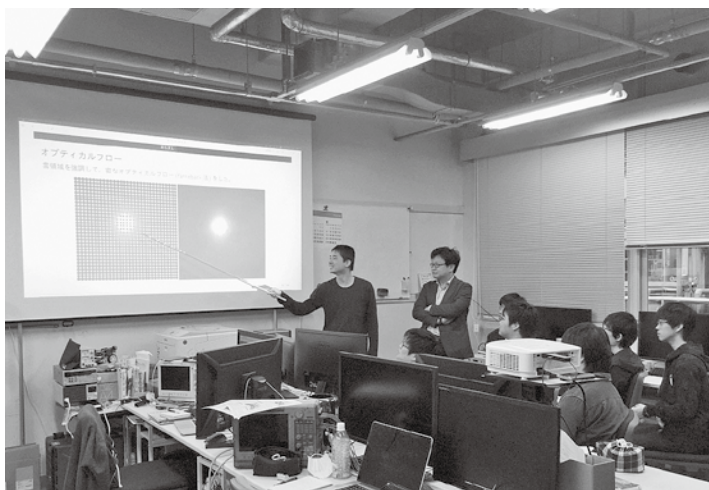
理工系の大学として、学部生の頃から研究を意識し、授業と研究の連動を体験することができます。

担当教員:物質生命科学科 講師 小土橋 陽平



知能情報システム研究室(電気電子工学科)

おじゃまします。



知能情報システム研究室では、実世界と情報世界を融合することで、人間の行動や嗜好を理解して助ける気の利いた知的な情報システムの実現を目指しています。基盤となる技術は、「カメラやセンサなどによる実世界計測・認識技術」「実世界で起きている事を理解するための学習・推論技術」「システムから実世界に働きかけるインタラクションや制御技術」の三つです。これらの技術をベースに、画像認識、Internet of Things (IoT)、スマートエネルギーマネージメントなど多岐にわたる領域で研究を進めています。

研究室訪問

第43回

研究室学生からひとこと

浅野 隆 さん(理工学部電気電子工学科4年)

太陽光発電の予測に、偏光カメラを使用できるようにするための研究をしています。このカメラは、肉眼では見ることができない光の偏光という性質を撮影することができる特殊なカメラです。この現象は空でも起こっていて、空での偏光の様子を調べることで太陽光発電の予測に役立っていかようとしています。現在は、偏光の様子からカメラの補正を行っています。また、高校生への研究紹介や模擬講義など、様々な経験を積んでいます。

研究室担当教員

加藤 丈和 先生

■プロフィール

愛媛県出身。岡山大学大学院自然科学研究科修了。博士(工学)。産業技術総合研究所、和歌山大学、情報通信研究機構、京都大学を経て、2016年に本学理工学部電気電子工学科に着任。パターン認識、人工知能、エネルギーマネージメント、IoTなどの研究に従事。

静岡理工科大学卒業生の高校教員座談会

本学教職課程で高等学校教諭普通免許を取得し、卒業後に県内の高校で教員として活躍される先生方に、今夏実施された静岡県公立学校教員採用選考試験に合格した学生を交えて、教員生活について伺いました。

伊藤律：皆さん、お忙しい中お集りいただき、ありがとうございます。

早速ですが、日々のご指導の中で、理工系学部で教員免許を取ってよかったなと感じていることはありますか？

中川：教育系学部に比べて実験の回数が圧倒的に多く、自分が実際に経験しているので、生徒に話す時の説得力が違います。

渡辺：そうそう。本気でやらないと危ないぞ！って時の説得力とか。

原田：モノづくり系のサークルが多くあるのも強みでした。実際にモノに触って・作って、その先に失敗や成功があって、経験したからこそ本質をダイレクトに伝えられるのが強みになってると思う。

渡辺：機械系だけじゃなくて、プログラミングとかの情報系も、自分がやろうと思った時に、できる環境が理工科大には整っていたからね。

伊藤成：教科書の説明が分かりにくくなって時には、自分の経験から具体的な説明を加えてあげると、生徒が「おおー。だからか！」みたいな。

伊藤律：理工科大の教職課程が学科に関係なく履修できるのは、色んな仲間と交流して、技術や知識の幅を広げて欲しいという狙いもあるんですよ。

今日は、来年度教員1年生になる柴君もいるので、皆さんの教員1年目を振り返ってもらえますか？

伊藤成：うーん。今思えば、生徒を注意する基準を自分の中に持っていればよかったなと思います。この基準がブレてしまうと、生徒との信頼関係が一気に崩れてしまう。

中川：理論立てて話をするのも大事だよな。高校生って思ってる以上に大人で、ただ「やっつけ！」とやって



絶対に通用しない。

渡辺：1年目って知らないことだらけだから、広い視野も大事だと思う。知らないことを見つけたら「それは何ですか？」って聞くこと。先輩にとってはそれが当たり前だから、聞かれて初めて「ああ！そうか。」って教えてくれることも多い。

原田：あるある。それでやらなきゃならないことがいっぱいになって無理しちゃう。だから僕は、今日はここまでってラインを決めて健康管理することも重要だと思う。

柴：すごく参考になります。教育実習の時にご指導いただいた先生方からも日々のコミュニケーションの重要性を教えていただきました。

伊藤律：クラス担任としてのやりがいも感じることができましたか？

伊藤成：生徒の成長を感じられた時が、担任をやってよかったって思う瞬間です。

中川：生徒の成長には同感。逆に、学校を去っていく生徒がいる時が一番辛いかな。先生方と協力しているんな手を尽くすけど、毎回、違う方法があったんじゃないかと思って、心にシコリみたいな物が残るんだよね。

松本：私の若い頃は、生徒指導が厳しい時代で退学者も多く出ました。中川先生の心に残った後悔に似た感覚はよくわかるし、その思いを忘れることはできない。

伊藤成：退学だけでなく、留年もそれに近い感覚になる。でも、まだそこにいるから、何とかしてやろう！って、試行錯誤を繰り返すみたいな。

伊藤律：現場で積み重ねた経験と、それをサポートしてくれる仲間に恵まれて、皆さんの考え方や取組みが先生らしくなってきたなと感じました。

大学には、皆さんの後を追いかける後輩が沢山いるので、時々は大学に遊びに来て、現場の生の声を聞かせてあげてください。本日はありがとうございました。



▲左から、柴郁弥さん、渡辺富夫先生、中川雄悟先生、伊藤成哉先生、原田和真先生
手前左から、伊藤律夫特命教授、松本直己特命准教授

理工科大生が ラグビーワールドカップ大会 をサポートしました!

この夏、日本中が熱く盛り上がったラグビーワールドカップ。エコパスタジアム周辺も、大いに盛り上がった1ヶ月となりました。今日は、その盛り上がりに一役買ったRikejoCaféの皆さんと定国研究室を代表して寺分さんに集まっていただきました。



司会 それぞれ、どんな活動をしたか教えてください。

彩夏 私たちRikejoCaféは、エコパスタジアム周辺にあるレストランやカフェと協力して、ラグビーをイメージしたメニューの開発と販売を行いました。

寺分 僕たち定国研究室は、エコパでの試合開催日に設置された「おもてなしエリア」で、VR (virtual reality) を使ったラグビーのゴールキック体験ブースを開きました。

司会 どちらも面白そうな活動ですね!それをやろうとしたきっかけは?

久美 今回が初めてじゃなくて、2年前にも同じような活動をしていました。

辻本 その時は希望者でやったんですが、かなり大変だったので、今回はRikejoCafé全体で取組むことにしました。

寺分 僕たちも2年前にエコパでのラグビーワールドカップを盛り上げたくて、袋井市役所で同じような活動をしたことが、今回のブース出展に繋がりました。

司会 RikejoCaféの皆さん、新商品の開発はどんな部分が大変でしたか?

竹内 私たちが目指す新商品の開発に絶対外せない、協力店舗さんとの打合せの日程調整が一番大変でした。

竹中 ラグビーがイメージできる! って部分も難しかったよね。
岡部 それでも、2年前に比べればスムーズに進んだと思います。ワールドカップの開催が近づいていたということもあったのかなと思います。

司会 「にわかファン」が流行語に選ばれましたが、皆さんはラグビーファンでしたか?

辻本 あまり興味が無かったけど、メニュー開発に参加するうちに興味を持つようになりました。

竹内 私も興味はなかったです。でも、メニュー開発やテレビ中継で少しずつ好きになって、最後は自分でチケットを買って、エコパに試合を見に行きました。

司会 スタジアムに来た人たちと実際に交流した寺分さんは、どんな感想ですか?

寺分 ブースにはもの凄く多くの外国の方が来てくれて、僕の片言の英語とボディランゲージが通じて、握手やハグで「ありがとう」を返してくれましたのが凄く嬉しかったです。なんか、言葉や文化の違いを越えられた気がしました。



司会 ブース出展した4日間は楽しい時間になったんですね。

寺分 はい。特に、日本対アイルランド戦は、体験希望者の列が途切れることなく続く大盛況で、嬉しかったんですが、休憩時間が全く取れなくてクタクタになりました。

司会 もし、次があれば、どんなことをやりたいですか?

竹内 次の大規模なイベントといえば、オリンピック。それにちなんだ活動にチャレンジしたいし、楽しそうかもしれない。

寺分 今回のVRゴーグルを使った体験は、12歳以下の子供が体験できない内容でした。次回は、年齢制限無く、誰でも楽しめるコンテンツを作りたいです。



司会 では、最後に、今回関わっていただいた方や後輩に伝えたいことはありますか?

寺分 ビビらず飛び込んでみれば、周り一体となって楽しんだり、新しい交流が生まれたりといった素敵な体験ができます。あと、頑張った分のやり甲斐も感じることができるので、迷わず飛び込んでみてください。

久美 この企画に協力いただいた多くの皆様にとっても感謝していますし、迷惑をかけながらも最後まで協力合えたメンバー全員にも感謝しています。

司会 活動目的は「ラグビーワールドカップを盛り上げる」ということでしたが、それ以上に皆さんにとってかけがえのない経験となり、同時に、未来への課題に気付くこともでき、多くの事を学ぶ機会となったようですね。皆さんの今後の活動に期待しています。

Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

静岡初の建築学科に大いに期待

石川建設株式会社 専務取締役 **金原 晃雄**さん



私は、現在地元建設会社の役員ですが、元々専門が建築耐震構造ということもあり、理工科大学に建築学科が新設されることを知り、ワクワクしながら、当時設立準備室長だった構造の丸田先生を訪ねたのを懐かしく思い出します。そんな縁から、先日にも建築学科2年生向けの実践技術者講座の特別講師として「構造設計・地元ゼネコンの仕事」と題して拙い話をさせていただきました。講座開設にあたり講師を引き受けさせていただきましたが、第1期生が建築を学ぶ自分の息子と同学年ということもあり、毎年新しい学生諸君と会えることを非常に楽しみにしています。

また、会社本業としてもこの夏に、理工科大学の「学生ホール改修工事」を施工させていただき、少しでも大学のお役にたてたかなと思っています。また、先生方は、設計事務所や大手ゼネコン等の実務を経験された方が多く、国立大学にも全く引けを取らない素晴らしい教育・研究環境で大いに応援しています。

今後、地域と建築学科との交流を深め、地域に建築文化・建築技術が根付いていく事を期待しています。

つながりのまちづくり

袋井市協働まちづくりセンターふらっと センター長 **山鳥 裕子**さん



私がセンター長を務めているふらっとは、平成18年の開設より、「市民活動支援・協働のまちづくり」を目的とした活動を続けており、静岡理工科大学の学生サークルの皆さんと様々な場面でつながりを持っています。例えば、放課後児童クラブでの活動や、地域イベントでの「科学実験・体験」「マジックショー」「工作」「寸劇」等で交流や教育への支援。また11月17日開催の「第10回ふらっと祭」では、理工科大生の皆さんをはじめ、周辺中学校から、29名がボランティアとして参加いただきました。

ふらっとでは、地域課題解決に向け団体間のコーディネートを推進するために現在市内で活動する237の市民団体を冊子やホームページ等を使って広く紹介しています。「つながりのまちづくり」は気付いた人から始まります。

「未来の社会を担う人財の宝庫『学校』と『地域』をつなぎ、『夢』がふくらむ活動」を目指し、静岡理工科大生の皆さんとふらっとのネットワークが深まり拡大することを願っています。



活躍する卒業生

徳島大学大学院 先端技術科学教育部

知的力学システム工学専攻

機械創造システム工学コース 博士後期課程

横田 雅司さん

(大学院理工学研究科システム工学専攻第22期修了生)

私は、ロボットの研究がしたいと思い、静岡理工科大学に入学しました。大学4年次は益田正先生の研究室、大学院の2年間は野崎孝志先生の研究室で、移動ロボットや二輪駆動電動バイクの研究を通じて、メカトロニクスや制御について学びました。

ロボットの研究には機械工学分野のみならず、センサや回路など電気電子分野の知識や制御プログラムなど広範な知識が必要でした。しかし、研究室が少人数で教授との距離感が近かったことで、多くのアドバイスを受けることができ、必要となる知識や技術を修得することができました。やりたい研究を自由にやることができ、研究やものづくりに没頭できる環境

だったからこそ、自ら考え、解決する力が身に付いたと実感しています。

現在、徳島大学大学院へと進学し、パワーアシスト装置の機械設計だけでなく、電子回路やプログラムも含めた「パワーアシスト装置に関する研究」を行っています。理工科大学で学んだことを活かし、積極的に研究に取り組み、学会発表や特許出願などで忙しくも楽しい毎日を送っています。将来的には、静岡理工科大学の先生方のような研究者になれるように、この毎日を積み重ねていきたいと思っています。

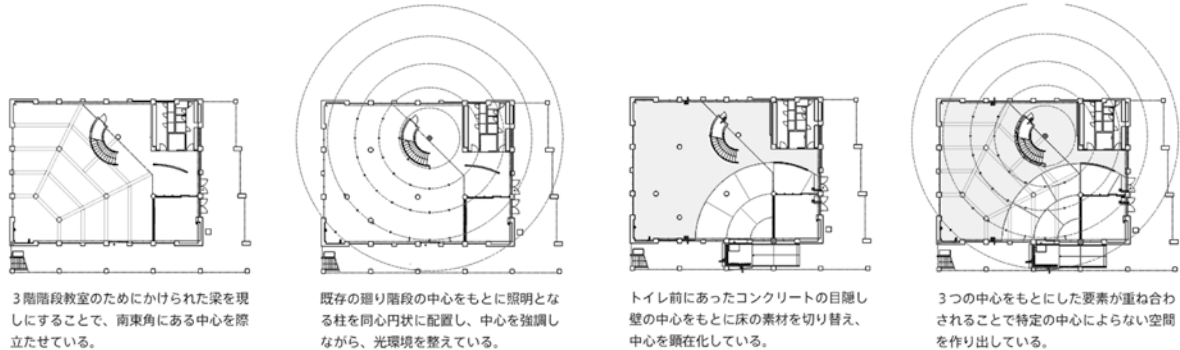
特集 学生ホールを全面改修し、 カフェテリアをオープンしました!



静岡理科大学 学生ホールは、開学以来、学生の休憩場所として利用されてきましたが、学生からの「大学内におしゃれな施設が欲しい」「ゆっくり食事ができるカフェテリアが欲しい」等の要望に応え、カフェテリアを設置した新たな学生ホールへと全面改修しました。

新たな学生ホールは、白とグレーを基調としながら、県産の杉と桧を主な素材として用いています。天井に躯体の梁を大きく見せ、室内の照明を床からの自立式とし、大学内でも特徴的な空間を演出しています。

カフェテリアは、学生だけでなく、大学で働く教職員や外部からのお客様も利用可能です。ランチのほか、軽食やケーキ・スイーツを販売しており、コーヒーを片手に友人との談笑や勉強・読書等の思い思いの過ごし方をする学生の姿が見られる、新たな憩いの場として活用されています。ぜひ新学生ホールにお立ち寄りいただき、「ホッとした一時」をお過ごしください。



3階階段教室のためにかけられた梁を現しにすることで、南東角にある中心を際立たせている。

既存の廻り階段の中心をもとに照明となる柱を同心円状に配置し、中心を強調しながら、光環境を整えている。

トイレ前にあったコンクリートの目隠し壁の中心をもとに床の素材を切り替え、中心を顕在化している。

3つの中心をもとにした要素が重ね合わされることで特定の中心によらない空間を作り出している。

静岡理科大学 学生ホール改修工事

監修(基本構想・設計監修)……総務課(深澤直人、佐藤博紀)＋
建築学科(田井幹夫、脇坂圭一)
設計・監理……403architecture [dajiba]
(彌田徹、辻琢磨、橋本健史)

構造……yasuhirokaneda STRUCTURE
(金田泰裕)
施工・管理……石川建設株式会社
(河村俊吾、金原史和)
照明設計……株式会社 岡安泉照明設計事務所
(岡安泉、加藤樹里)

工事に携わった担当者より

403architecture [dajiba]
設計・監理担当 **彌田 徹 氏**

新たな学生ホールでは、建物が持っていた見えな
い幾何学的な中心が設計の基点となっています。
当初、裏手のような場所だった学生ホールも、今回の
改修を通して、学生さんや職員さんの学校生活を
はじめ、大学と地域の基点となればと思います。

石川建設株式会社

施工・管理担当 **金原 史和 氏**

オープンおめでとうございます。工事中は多
大なお協力を賜りありがとうございました。オープ
ン後は多くの方に利用して頂き嬉しく思います。
新学生ホールでゆっくりお過ごし、たくさんの思
い出を作ってください。

静岡理科大学総務課
監修担当 **佐藤 博紀**

遂に静岡理科大学にも「おしゃれなカフェ
テリア」が新設されました。地域の方から卒業
生、または保護者の皆様にもご利用いただけま
す。新たな学生ホールの空間を味わい、最高の
一時をお過ごしください。

特集

来年度3月卒業生の就職活動に向けて

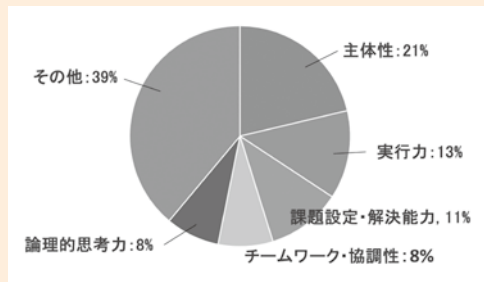
来年度3月に卒業を控える学生にとって、就職活動が本格化する時期となりました。
また、建築学科では、初めての卒業生を輩出します。

昨年度の本学実就職率99.2%は、(株)大学通信社の調査により、全国工科大
学で6位と、就職に強い大学としての定評に恥じる事のない結果を残す
ことが出来ました。毎年のことながら、早々に内定を得て就活を終える学生と苦
戦の続く学生がいます。両者の差は、就活の本格化する3月までの「準備の
差」です。

来年度3月卒業生の就活スケジュールは定まっており、産業界が学生に求め
る資質は明確になっています(図1)。学生の皆さんは、再度自分の志向や興味
を掘り下げ、自分について深く考えてみましょう。保護者の皆様におかれまして
は、お子様と就職についてじっくりと話す場を設けてください。また、企業様におか
れましては、職種を第一に考慮する学生の嗜好をご理解いただき、求人をご提供願
いいたします。

本学では、引き続きキャリア支援課と指導教員を中心に全教職員が協同し、学生の就職を支援いたします。

学生事務部 キャリア支援課
統括 **青島 偉夫**



〈図1〉企業が学生に求める資質

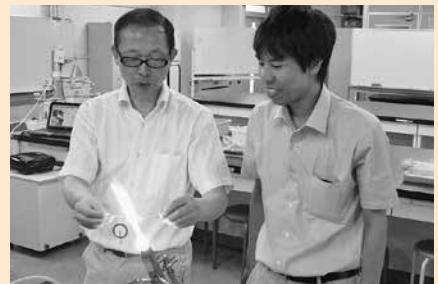
SIST体験型講座

7月27日(土)、本学にてSIST体験型講座を開催し、当日は20名の皆様に参加いただきました。「視覚・色彩の不思議な世界から、君だけのイリュージョンを作ってみよう!」をテーマに、コンピュータシステム学科の櫻井将人准教授から錯視に関するメカニズムの解説を受けながら、コンピュータ上でオリジナルのイリュージョン作りを体験しました。参加者からは「生活の中に取り入れてみたい」「人の脳の不思議さを改めて実感した」といった感想をいただきました。



ガラス細工講習会

7月29日(月)、8月5日(月)、9月10日(火)の3日間、教職員および学生を対象に「ガラス細工講習会」を実施しました。講師には、全国国立機関ガラス技術者の会代表百瀬与志美先生を招き、実験器具だけでなく、結晶成長・高分子合成・真空などの研究に対応できる器具や装置を製作する技術の実演とともに、ガラス細工制作の体験をしました。ガラス細工のできる技術者や職人は、後継者不足のため全国的に減少傾向にありますが、独自の研究を実施する上で欠かせない技術となるガラス細工の魅力を感じられる貴重な機会となりました。



サイバーボランティア

8月7日(水)、本学にてサイバー防犯ボランティアの委嘱式が実施されました。静岡県警察からの委嘱を受けた学生7名は、今後インターネット上の有害情報の発見・通報や、インターネットを安全に利用するための啓発活動を行います。委嘱式を終えた学生たちは、「サイバー犯罪による被害者が無くなるよう貢献したい」「大学での学びを活かし、有害サイトを発見したい」と今後の活動に向けた意気込みを語ってくれました。



市民体験入学

8月24日(土)、本学にて市民体験入学を開催し、当日は172名の皆様にご参加いただきました。基調講演では、集中力プロデューサーの森健次朗氏を招き、「あなたの能力100%出し切ってますか?成功のコツは集中力にあった!」をテーマにご講演いただきました。午後は、本学教員が講師を務める計8つの講座から、それぞれが選択した講座を受講していただきました。参加者からは、「馴染みのない分野に触れることができ、良い刺激となりました」「大学に通っていた当時の感覚を思い出しました」等の感想をいただきました。



学生フォーミュラ

8月27日(火)から8月31日(土)にかけて、小笠山総合運動公園(エコパ)で「第17回全日本学生フォーミュラ大会」が開催され、自動車部が出場しました。15位以内を目標として臨んだICV(ガソリン自動車)部門は98チーム中14位と見事に目標を達成しました。EV(電気自動車)部門については、マシントラブルによる無念のリタイアとなりました。学生たちは大会終了後の余韻に浸ることなく、ICV部門は更なる飛躍を、EV部門は故障箇所の特定・改善を誓い、来年度に向けた準備を開始しました。



SISTコロキウム

9月8日(日)、本学にてSISTコロキウムを開催しました。地元の4校の高校生が、人工知能による魚の識別や身近な物を使った環境改善など、授業や部活動での取組みを発表しました。発表内容に対し会場からは、質問だけでなく、改善点や新たな方法・参考となる書籍の紹介などがあり、ラテン語に由来し「討論会」を意味するコロキウムの名のとおり、一般参加者13名を含め、盛んな意見交換が行われました。



サークル間交流バーベキュー

9月19日(日)、クラブ連合委員会主催のサークル間交流会を開催しました。前日の雨天により開催中止も懸念されましたが、当日は天候にも恵まれ、予定通りの開催となりました。50名を超える学生が集まり、レクリエーションやバーベキューを楽しみ、サークル・学年を越えた新たな交流や既知の仲間との親睦を深める機会となりました。



地域学

10月8日(火)、本学にて「地域学」の表彰式を行いました。袋井市との包括連携協定の取組みの一環として、袋井市のまちづくりについて考える講義「地域学」。学生たちは6人程度のグループに分かれ、市の若手職員と共に市の特徴を活かした具体的な政策を提案します。本年度の市長賞には「女性の住みやすい街づくり」が、学長褒賞には「観光を盛り上げよう!」が選定されました。



大学祭

10月26日(土)、27日(日)の2日間、本学大学祭実行委員会主催の大学祭「SISTIVAL '19」を開催しました。本年度のテーマは、昨年の「Fun」から一歩踏み込み、より熱く開催したいとの思いを込めて「Excite!」としました。両日天気にも恵まれ、学生の出展ブースや恒例のスペシャルライブで活気あふれる本学キャンパスを多くの皆様に楽しんでいただく、「熱く・楽しい」大学祭となりました。



地域創成フォーラム

11月26日(火)、ホテルクラウンパレス浜松にて、令和元年度地域創成フォーラムを開催しました。特別講演には、アマゾンウェブサービスジャパン株式会社ソリューションアーキテクトの櫻田武嗣氏に「クラウドコンピューティング、AWS(アマゾンウェブサービス)とは?～AWSの概要、セキュリティ、データプライバシー～」と題して講演いただきました。また、本学教員や静岡県の試験研究所の技官による研究事例発表や、パネルによる研究紹介に加え、本年度新たな試みとし、静岡理科大学産学コラボネット会員企業様にご協力をいただき、メイン会場・懇親交流会場に本学教員や企業様同士の交流創出の場を提供いただきました。

本学教員を含め194名が参加し、産学連携による地域活性化について考える貴重な時間となりました。



入試広報NEWS

■学生VOICEで本学の魅力を発信!

本学は、静岡県唯一の私立理工系総合大学として、2017年に理工学部に建築学科を設置、本年4月にコンピュータシステム学科にデータサイエンス専攻を開設、2022年4月には理工学部に土木工学科(仮称)を新設する構想を掲げ、常に進化し続け、世の中で必要とされ貢献できる人材の育成を進めています。

昨年度卒業生の実就職率は99.2%。その実績は全国の工科大学で6位、北陸・東海地区の大学で10位にランクインしています。

(引用元:株大学通信発行 大学探しランキングブック2020)

その高い就職実績を収めることができた理由の一端を本学受験生サイトの学生VOICEコーナーにおいて垣間見ることができます。

そこでは主に、本学学生が

- ・なぜ理工系の大学に進学をしたのか
- ・大学ではどのような生活を送っているのか
- ・卒業後の未来、将来の夢をどのように実現しようとしているのか

にスポットを当て、どのような思いで学生生活を送り、どのような成長を遂げたのかに迫ります。

入学から卒業、また講義内容や課外活動、研究活動、留学生活、就職活動などトータルの大学生活について、本学で実際に学ぶ在学生のリアルな声から、静岡理工科大生の素顔に触れ、本学の魅力を探ってください。



◀学生VOICE

<https://www.sist.ac.jp/navi/article/voice/>

静岡理工科大学の「スゴい」を体験! 自分の将来像を見に行こう!

進路イベントの日程【3月~7月】

- 大学見学会 2020年3月25日(水)、5月24日(日)、6月14日(日)、7月5日(日)

開催時間13:00~16:00

研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など

※開催日が変更になる場合がございます。

最新の情報は受験生サイトでご確認ください。

※詳細や参加申し込みは、本学受験生サイト

(<https://www.sist.ac.jp/navi/>) からどうぞ!

※無料駐車場有。JR愛野駅南口から無料シャトルバス運行。



2019年度 学部長表彰

優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生を表彰する「学部長表彰式」を行いました。受賞者は次のとおりです。



機械工学科3年
陳 俊達 さん

2019年度
精密工学会春季大会学術講演会

ベストプレゼンテーション賞



情報デザイン学科4年
寺分 元則 さん

第62回
東海学生弓道選手権大会

男子個人第7位

人事異動

令和元年7月8日付採用



理工学部電気電子工学科 教授

美馬 一博

専門分野 メカトロニクス、ロボティクス

略歴 電気通信大学大学院 電気通信学研究所博士課程修了。トヨタ自動車㈱を経て、本学教授に就任。

趣味 工作(家族に好評だったのは「自動ペットボトルつぶし器」でした)



■ ホームカミングデーを開催しました!

昨年10月27日(日)にホームカミングデーを開催しました。

今回は、新たな会場として、学生ホールカフェテリアにて開催いたしました。新しい会場での開催はいかがでしたか?当日は、卒業生やご家族、教職員など約300名以上の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しみました。

また、同窓会長野支部・浜松地域支部からも多数の同窓生にご参加いただき、メインイベントに「○○な人を探し出せ!〜借り物競争SISTver.〜」を開催し、大人から子供まで楽しく参加することができました。恒例の「大抽選会」とあわせ、大いに盛り上がり、親交を深め合うホームカミングデーとなりました。また、参加者全員で学歌を斉唱し、久しぶりに大学生気分を満喫した一日となりました。



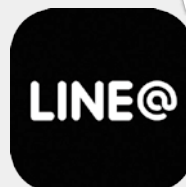
■ 同窓会「支部交流会」を開催しました!

昨年11月23日(土)長野県松本市にて同窓会長野支部総会の開催に伴い、「長野支部×浜松地域支部」の支部交流会を開催しました。長野支部からは支部長・副支部長・会計・監事が出席され、浜松地域支部からは、支部長・会員が出席し、学生時代の苦労話や、夜通し飲み明かした楽しい話など、大いに盛り上がる支部交流会となりました。今後も各支部の活発な活動を期待します。

■ 同窓会各種SNSのお知らせ

ホームカミングデー等の開催告知、役員コラム、同窓会ニュース等の最新の情報を一早くお届けします! 盛りだくさんの内容となっていますので、是非登録してください!

LINE@に友だち登録すると、ホームカミングデーの景品当選確率2倍になるよ! 是非登録をお願いします!



■ 保護者懇談会の開催

昨年10月26日(土)に「保護者懇談会」を開催し、160組を超える保護者の皆様に参加いただきました。

全体会では小坂後援会長より御挨拶をいただき、後援会の活動状況に関して、今年度はキャンパス内環境整備として「学生食堂前テラスの整備支援」及び「学生ホールカフェテリアの厨房什器整備支援」の実施計画について説明がありました。

その後、本学カウンセラーである橋本秀夫氏をお招きして「大学生とのコミュニケーションと関係づくり〜人生を幸せにするのは何?〜」と題して、ご講演をいただきました。

カウンセラーの立場から、家庭でのお子様との向き合い方・接し方等について丁寧に説明していただき、来場された方々も熱心に耳を傾けていました。

午後に実施した「助言教員との個別面談」には、60組の保護者が参加されました。大学や家庭での様子等についての情報交換が行われ、大変有意義な機会となりました。



サークル紹介

MODEL CREATIVE CLUB

代表 洞田 雅己さん(機械工学科2年)

こんにちは、MODEL CREATIVE CLUBです。名前が長いのでそれぞれの頭文字をとってMCCと私たちは略しています。サークル名に「creative」とあるように模型のキットをただ組み立てるだけではなく、「オリジナリティ溢れる作品を創造する」という理念を掲げて日々活動に励んでいます。

このサークルでは、模型にする対象物のジャンルを問わず、何でも自由楽しく作ることが出来ます。現在は部員9名で静岡ホビーショーへ出展することを目標に、小さなコンテストなどに自分たちの作品を応募して知名度を上げています。

今年の大学祭では、たくさんの方が展示を見に来てくださり大変好評をいただきました。

このサークルの他と違った良い点は、活動日の活動開始時間以降なら好きな時に来て、好きな時に帰ることが出来るので勉強との両立がしやすい環境となっているところです。

私たちと自分だけのオリジナル模型を作りましょう。



スポットライト がんばる理工科大生



田中 葵さん(建築学科2年)

開設3年目となる建築学科では、仲間と共に日々切磋琢磨しながら頑張っています。2年次の講義では構造力学・環境設備学・建築計画・建築史・CAD・材料実験など、建築に関わる様々な分野を勉強します。その中でも「建築設計」の授業では毎回大きなコンセプトと敷地が与えられて、自分なりの考え方で建物を提案します。課題の提出日まで担当教員と何度もエスキースを重ねたり、案を考え直したり、模型を作り直したりして仕上げていきます。1つの課題に対して、自分なりのコンセプト、キーワードを持ち、形にしていくには悩むことが多いですが、その分達成感が大きいです。

作り上げた模型は夏と春の年2回開催される講評会「バーチャルレビュー」で、外部講師を招いて評価されます。夏のバーチャルレビューでは、「開く家」という課題で、東北大学の小野田泰明先生から賞を頂くことが出来ました。袋井の街や人々に開かれた住宅を発表し、住宅に取り入れた中庭の山の存在を土木と建築の間のような空間が出来ていると評価していただきました。私の中では思いがけないような点を見ていただけて嬉しく、大変貴重な時間でした。様々な視点から講評していただけるためとても勉強になり刺激になり、励みになります。

設計を考えるにあたり敷地調査を通して利用する人の流れ、光の当たり方、風の流れなど建築学科に入らなければ考えることが出来なかったことがたくさんあります。デザインはもちろん、使う人や周辺環境など広い視野を持って設計課題に励んでいきたいと思えます。



編集後記

今回の特集にもあったラグビーW杯、エコパスタジアムの全試合を見に行きました。試合はもちろん面白かったのですが、それに加えて会場のボランティアの皆様丁寧さ・明るさが大変素晴らしく感動しました。本学学生も様々な形で参加していたようで、非常に良い経験になったのではないのでしょうか。ところで、本号の表紙に写っている学生は前号の「頑張る理工科大生」に登場してくれた増田君です(コラム内でも電気自動車コンテストを挙げていました)。アルミ溶接を行うレベルで電気自動車を自作したとのこと。凄い!(T)

静岡理工科大学キャンパスニュース

令和2年1月31日発行

企画・編集・発行/静岡理工科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<https://www.sist.ac.jp> E-mail:shakai@sist.ac.jp

